

平成14年度 病害虫発生予察注意報 第3号

平成14年8月2日
発表：福島県病害虫防除所

病害虫名：イネ 斑点米カメムシ類

1 発生地域：県下全域

2 発生量：やや多い

3 注意報発令の根拠

ホソハリカメムシとアカヒゲホソミドリカスミカメ（メカラガメ）は6月頃から水田周辺の雑草で多くすくい取られている。また、アカヒゲホソミドリカスミカメは7月1～2半旬に予察灯（会津坂下町）で平年より多く誘殺された（図1）。

近年浜通りで多発するクモヘリカメムシの初確認は昨年より遅い7月4半旬だったが、7月6半旬に急増し、すでに出穂している水田内では侵入が確認された（表1）。また、県南地域でも水田周辺の雑草で多発が確認された。

アカスジカスミカメの発生が浜通り全域で見られ、7月6半旬に幼虫の多発が確認されている。また、クモヘリカメムシも幼虫の発生が確認されているので、今後の発生増加が予想される。

今後の1か月予報によると気温、降水量とも平年並でカメムシ類の増殖に適した条件が継続すると予想される。

4 防除上注意すべき事項

出穂直前に水田周辺雑草を取り除くと、カメムシ類を水田に追い込む結果となるので、雑草の刈取りは行わない。

カメムシ類は出穂すると水田内に侵入してくるので、出穂直後から水田内をよく観察してカメムシ類が見られる場合（20回振りすくい取り調査では2～4頭）は防除を実施する。

斑点米カメムシ類の薬剤防除は、カメムシの種類によって散布時期、散布薬剤が異なるので、適切な方法で行う。

防除薬剤は表2の通りである。防除時期は水田内の生息密度が高くなる乳熟期に散布する。その後も成虫飛来や幼虫の発生が見られる場合はさらに1週間間隔で追加防除を実施する。

ただし、クモヘリカメムシは出穂後の早い時期から水田内に侵入することから、侵入した成虫を対象に乳熟初期から防除を実施する。

防除薬剤はオオトゲシラホシカメムシなどのカメムシ科には、有機リン系殺虫剤の効果が高く、コバネヒヨウタンナガカメムシなどのナガカメムシ科にはカーバメート系の効果が高いといわれている。これらのカメムシが混発している場合はこれらの混合剤を使用する。なお、クモヘリカメムシには有機リン、カーバメート系とも効果が認められている。

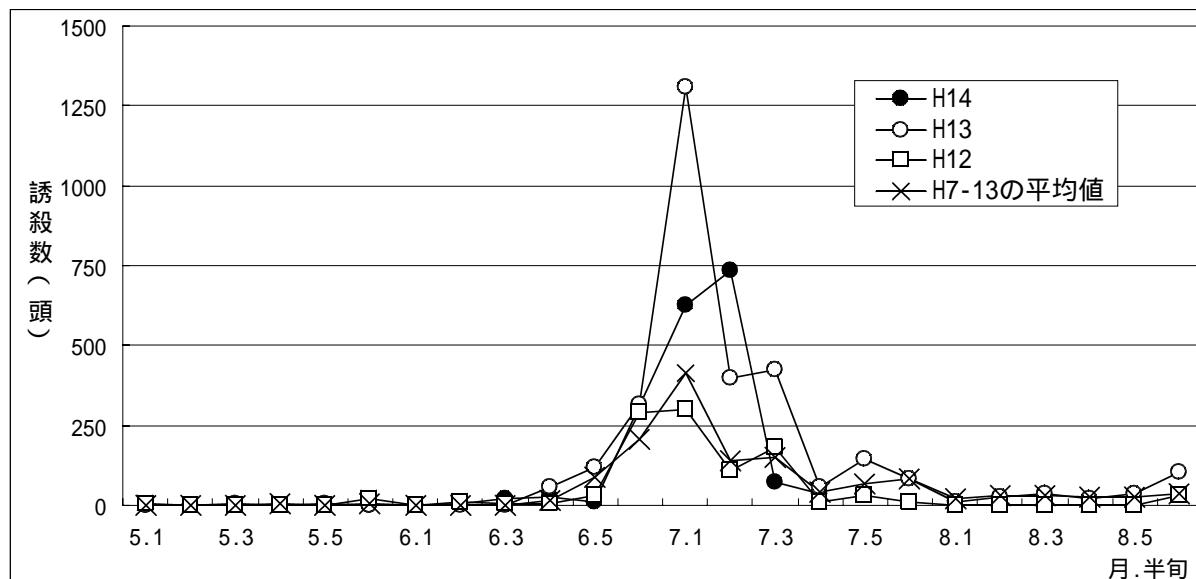


図1 予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメ半旬毎の誘殺数(会津坂下町)

表1 出穂の程度と斑点米カムシ類のすくい取り数(頭)

出穂の程度	アカヒゲ ホソミドリ カスミカメ	ホソハリ カムシ	クモヘリ カムシ	アカスジ カスミカメ
未出穂	0	0	0	0
"	0	0	1	0
穂ばらみ	7	1	5	0
穂ぞろい	0	1	6 3	2 3

調査月日：平成14年7月31日、調査地点：浪江町大字井手
調査は水田内の畦畔際を20回すくい取った。

表2 斑点米カムシ類の防除薬剤

薬剤名	剤型	成分(分類)	使用期間(収穫前日数)	総使用回数
エルサン	粉剤3、乳剤	有機リン	7日前まで	3
エルサンバッサ	粉剤20DL	有機リン	7日前まで	3
スミチオン	粉剤2DL	有機リン	14日前まで	4
スミチオン	乳剤	有機リン	21日前まで	4
スミバッサ	乳剤20DL	有機リン+カーバメート	14日前まで	4
パブチオン	乳剤	有機リン	7日前まで	3
バイジット	粉剤2、DL	有機リン	21日前まで	2
バイジット	乳剤	有機リン	30日前まで	1
バイバッサ	粉剤	有機リン+カーバメート	21日前まで	2
ベストガード1	粉剤DL	ネオニコチノイド	14日前まで	4
トレボン ²	E W	合成ピレスロイド ¹	21日前まで	3 3
MR.ジョーカー ²	粉剤DL	合成ピレスロイド ¹	7日前まで	2 3

乳剤：1,000倍液 140～150リットル/10a 粉剤：3～4kg/10a

1 使用量は4kg/10a

2 蚕に毒性が強く、使用規制地域では使用できない。

3 合成ピレスロイド系殺虫剤の使用は年1回とする。